

実践のまとめ（第2学年 社会科）

村上市立村上東中学校 教諭 菅原 康平

1 研究テーマ

社会的な見方・考え方を働かせ、必要感をもって課題解決に取り組む生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

これまでの授業実践を振り返ると、「①社会的な見方・考え方を働かせる場面が明確でなかったこと」「②生徒が学習課題に対して他人事になっていること」の2点が課題としてあげられる。この課題の改善を図るために、上記のテーマを設定し、研究に取り組んでいく。

①について、学習指導要領（平成29年告示）では、社会的な見方・考え方を「社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の『視点や方法（考え方）』であると考えられる。」と定義している。加えて、「社会的な見方・考え方を働かせるとは、そうした『視点や方法（考え方）』を用いて課題を解決したり追究したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の『社会的な見方・考え方』が鍛えられていくことを表現している。」と記述されている。そのため、学習活動の中で社会的な見方・考え方を繰り返し用いることで、生徒の資質・能力を育んでいく必要があると考える。これまで、課題解決型の学習活動を実施してきたが、社会的な見方・考え方を働かせる場面を明確に位置付けてこなかったため、生徒の資質・能力を十分に育んでいくために改善が必要である。

②について、学習課題が生徒にとって解決する必要感がないものだったため、他人事になってしまったと考えている。解決の必要感をもたせることができなければ、主体性を欠き、深い学びにはつながらないと考える。深い学びを実現するためにも、生徒が必要感をもって課題解決に取り組めるような手立てについて研究する必要がある。

(2) 研究テーマに迫るために

① 導入を工夫し、「生徒の学びに向かうエネルギーを高める」

林（2024）は、授業における導入の役割の1つを、「生徒の学びに向かうエネルギーを高めること」と定義している。また、学びに向かうエネルギーを高める方法として「①共有する、②興味・関心を引き出す、高める、③学びの意義に気付かせる、④方向性を見極める、⑤展開や終結とつなげる、組み合わせる」の5つを提示している。本研究では、この5点を意識した授業の導入を実施する。そのことにより、生徒が必要感をもって学習課題の追究、解決に取り組めるようにし、深い学びの実現に向けた第一歩となる主体性の育成を目指す。

② 社会的な見方・考え方を組み込んだ発問や課題を設定する。

「〇〇では～（場所）」、「どんな違いがあるか（比較）」など、社会的な見方・考え方を組み込んだ発問や課題を設定することで、生徒に社会的な見方・考え方を意識した課題解決の見通しをもたせることにつなげたい。

③ 学習した地域と村上市をつなげる、深める問いを設定する。

学習内容を自分事にするためには、住んでいる地域を学習対象にすることが効果的であると考えている。本単元では「村上市が観光都市として発展していくために活用できるものは何か」という深める問いを、単元を貫く問いとは別に設定する。この問いを考えるためには、日本の諸地域で用いた見方・考え方を再度用いる必要がある。これにより、生徒の見方・考え方の質を向上させることができる。また、他地域の特色と村上市を比較することで、汎用的な知識・技能の獲得を促し、深い学びへとつなげていきたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 授業後にアンケートを行い、「学習課題は自分にとって解決する必要性があるものだったか」、「学習課題を自分が関係する問題として考えることができたか」の項目で肯定的評価をした生徒が80%以上いる。
- ② 深める問い「村上市を観光都市として発展させていくために活用できるものは何か。」について、社会的な見方・考え方を働かせて記述している生徒が80%以上いる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「東北地方～伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし～」(『新しい社会 地理』東京書籍)

(2) 単元の目標

- ・ 東北地方に関する様々な資料を活用しながら、伝統的な生活・文化を主題にして、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解する。
- ・ 東北地方の地域的特色や地域の課題について、伝統的な生活・文化を中核とし、自然環境、産業、交通網などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。
- ・ 東北地方についての学習を踏まえ、村上市を観光都市として発展させる方法を自分事として考えようとしている。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
東北地方に関する様々な資料を活用しながら、伝統的な生活・文化を主題にして、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解している。	東北地方の地域的特色や地域の課題について、伝統的な生活・文化を中核とし、自然環境、産業、交通網などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	・東北地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・東北地方についての学習を踏まえ、村上市を観光都市として発展させる方法を自分事として考えようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全8時間、本時4／8時間）

次	学習内容	学習活動	主な評価基準と方法
1 (1) 本時	東北地方の地域的特色を見出し、単元を貫く問いを設定する。	◎東北地方の地域的特色とはどのようなものか。 ◎東北地方で祭りやイベントを行い、人を呼ぶことができるのはなぜか。	思判表 ・ 主体性 ・これまでに獲得した地理的な見方・考え方を活用し、東北地方の集客の背景を考察し、表現している。 ・単元を貫く課題に対する見通しや予想を表現しようとしている。 【観察、ワークシート】
【単元を貫く学習課題】 東北地方で行われている祭りやイベントはどのようなものに支えられているだろうか			
2 (4)	【第1時】 東北地方の自然環境や産業のあらましを整理する。	◎東北地方の自然環境や産業の特色はどのようなものか。 ◎産業と自然環境はどのように結びついているか。	知・技 ・ 思判表 ・東北地方の自然環境の特色を理解している。 ・自然環境と産業の関係性を、具体例を示しながら表現している。 【ワークシート】
	【第2時】 ・東北地方の伝統的な生活・文化の特色を理解する。 ・伝統的な生活・文化と気候、農業の関係性を考える。	◎東北地方の伝統的な生活・文化にはどのようなものがあるか。 ◎伝統的な生活・文化は気候や農業とどのような関わりがあるか	知・技 ・ 思判表 ・東北地方の伝統的な生活・文化の特色を理解している。 ・伝統的な生活・文化と気候や農業の関係性を、具体例を示しながら表現している。 【ワークシート】
	【第3時】 ・東北地方の伝統工芸や地場産業の特色を理解する。 ・伝統工芸や地場産業の変容の背景を考える。	◎東北地方で発展した伝統工芸や地場産業は自然環境とどのような関わりがあるか ◎なぜ伝統的なものの在り方が変わってきているのか。	知・技 ・ 思判表 ・東北地方の伝統工芸や地場産業と自然環境の関係性を理解している。 ・伝統が変容している背景を、具体例を示しながら表現している。 【ワークシート】
	【第4時】 ・東日本大震災の経験を未来につなげる意義を考える。	◎防災意識を高めるために、東日本大震災の経験をどのように発信すればよいか。	思判表 ・災害の教訓を受け継ぎ、未来に活かす方法を多面的・多角的に考察し、表現している。 【観察、ワークシート】

3 (3)	【第1時】 ・単元を貫く問いに対する 答えをまとめる。	◎『東北地方で行われている 祭りやイベントはどのよう なものに支えられているだ ろうか』に対する答えを、 具体例を含めて記述しよ う。	思判表 ・単元を貫く問いについて、 自然環境、景観、交通、伝統 的な生活・文化、産業など に着目して考察し、表現し ている。 【観察、ワークシート】
	【第2時】 ・深める問いを提示し、問 いに対する答えを考 える。	深める問い ◎村上市を観光都市として 発展させていくために活 用できるものは何か。	思判表・主体的 ・既習事項と村上市の地域的 特色を関連付け、観光都市 として発展させていくプラ ンを自分事として考察し、 表現している。 【観察、ワークシート】 ※2時間の活動を通して総括 的に評価する。
	【第3時】 ・深める問いの答えをより 具体化する。	◎寄せられた意見や質問の内 容を踏まえて、深める問 いの答えをより具体化しよ う。	

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元では東北地方を「伝統的な生活・文化」を中核として考察する。伝統的な生活・文化が成立してきた背景には、冬期間の降雪や産業など複数の地理的要因による相互作用がある。これは、社会的な見方・考え方をを用いた考察をするのに適したテーマであると考えられる。

また、東北地方の伝統的な生活・文化の特色は村上市の地域的特色と類似する部分が大きく、東北地方の学習以前に取り扱った九州地方の自然環境を中核とした考察、近畿地方の都市・農村の変化を中核にした考察で用いた見方・考え方も生かしやすいと考える。そのため、本単元で設定する深める問いは東北地方の学習だけでなく、九州、近畿地方の学習で活用した見方・考え方も働かせて考えさせるようにしたい。そうすることで、汎用的な知識・技能の獲得につながり、深い学びにいたることができると考える。

(2) 生徒の実態

① 教材と生徒のかかわり

村上市は県北に位置し、山形県と県境を接している、東北地方と近距離の地域である。そのため、休日に山形県のショッピングモールや遊園地等に家族で出かけたことがある生徒が70%程度おり、東北地方は生徒にとって比較的身近な地域だといえる。東北地方のイメージについてアンケートを実施した結果、以下のような結果となった。

Q：東北地方と聞いて、思い浮かべるものは何か？（一部抜粋）

寒い、雪が降る、米、さくらんぼ、りんご、ずんだ餅、牛タン、わんこそば、きりたんぼ、面積が広い、観光地、ねぶた祭り、田舎、大内宿、赤ペコ、伊達政宗、大谷翔平、地震

この結果から、生徒は、気候や農業、食文化に対するイメージを持っているが、伝統的な生活・文化についてはあまり認知していないことがわかった。そのため、本単元では気候や農業に加えて、それらの影響を受けている伝統的な生活・文化について学び、地域的特色の理解を広げられるようにしたい。また、東北地方の学習を踏まえて、村上市の地域的特色を改めて見つめる活動を行うことで、自分事として学習課題を考えられるように働きかけていく。

② 思考力・判断力・表現力の課題

対象となるクラスの生徒は、資料から読み取った情報を端的に説明したり、社会的事象のつながりを説明したりする力が不足している。その原因として、社会的事象を捉える際の見方・考え方が曖昧で定まっていなかったことが挙げられる。本単元では社会的な見方・考え方をを用いた考察を繰り返し行い、社会的事象を多面的・多角的に捉えて考察し、表現する能力を高めていきたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

- ・ 東北地方で祭りやイベントを行い、人を集めることができる理由について、自然環境、景観、交通、伝統的な生活・文化、産業などに着目して考察し、表現する。
(思考・判断・表現)
- ・ 単元を貫く問いに対する見通しや予想をもち、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開の構想

- ① 最初に帯活動を行い、近畿地方の学習内容を想起させるようにする。そうすることで、東北地方でもこれまでと同様に地理的な見方・考え方をを用いて考察し、理解を深めていくという意識をもたせる。
- ② 単元全体の視点である「伝統的な生活・文化」やその基盤にある気候や産業に意識を向けさせるために東北地方の祭り・イベントの画像を提示し、それらが実施できる背景を考察させる。その考察をもとに単元を貫く学習課題を設定することで、次時以降の学習の見通しをもたせる。
- ③ 展開の最後に「気候や伝統的なものを活用して、人を集めているのは東北地方に限ったことか」と発問する。この発問を通して、地域的特色が東北地方に限ったことではなく、他の地域にもいえる普遍性があることに気付かせたい。その上で、村上市も似たような特色をもつことを意識させ、東北地方の学習ではあるが、自分の地域に関連する内容であることを自覚させる。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け・発問 (○) 予想される生徒の反応 (・)	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (5)	<p>【帯活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4択問題に取り組む ・ 東北地方の写真を見る。 	<p>○間違いがある文を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都では伝統文化や町並みを観光に生かし、国内外から多くの人々が訪れている。 ○これらの写真から分かる、東北地方の特色は何か。 ・ 雪が降る地域である。 ・ まつりやイベントがさかんな地域である。 	<p>◇近畿地方で用いた、伝統文化や景観の見方・考え方を想起させる。</p> <p>◇東北地方のイベントや観光地の写真を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雪灯籠まつり (米沢) ・ 人間将棋 (天童) ・ 竿燈まつり (秋田)
<p>学習課題 東北地方では観光客を呼ぶために、どのようなものを活用しているのか</p>			
展開① (25)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北地方で祭りやイベントを実施できる背景を考察する。 ・ 他の班の情報を得る 	<p>○写真のような祭りやイベントを行い、多くの人を呼ぶことができるのはなぜだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される生徒の解答例】</p> <p>○雪灯籠まつり 米沢は冬になると大雪が降るので、それを観光に活用している。新幹線が通っているため、東京からも人を呼びやすい。雪がない地域の人が幻想的な景色を楽しむことができる。</p> </div> <p>○自分が担当しなかったイベントの情報を集めましょう。</p> <p>○東北地方では、どのようなものを活用して観光客を集めているといえますか。キーワードを挙げましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候 ・ 伝統 ・ 祭り ・ 産業 	<p>◇自然環境、景観、交通、伝統的な生活・文化、産業など、これまでに用いてきた見方・考え方を意識させる。</p> <p>◇班ごとに考察するイベントを変える。</p> <p>○.....のような記述がない生徒や班については、ヒントを与えて支援する。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>東北地方で祭りやイベントを行い、人を集めることができる理由について、自然環境、景観、交通、伝統的な生活・文化、産業などに着目して考察し、表現している。</p>
展開② (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を貫く学習課題を設定する。 	<p>○東北地方の祭りやイベントは伝統だけで成り立つものだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成り立たない、他の要素もいる 	<p>○キーワード間の関連に意識を向けさせる。</p>
<p>【単元を貫く学習課題】</p> <p>東北地方で行われている祭りやイベントはどのようなものに支えられているだろうか</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を貫く学習課題に対する予想を立てる。 	<p>○単元を貫く課題に対する予想を立てましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候や産業が関わっている。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>単元を貫く問いに対する見通しや予想をもち、課題を</p>

			主体的に追究しようとしている。
まとめ (5)	・振り返りをする	○今回の学習を通して考えたことや気になったこと、もっと知りたいと思ったことを書きましよう。	◇活動に用いたスライドやワークシートの画像と一緒にデータで提出させる。

(4) 評価

- ・ 東北地方で祭りやイベントを行い、人を集めることができる理由について、自然環境、景観、交通、伝統的な生活・文化、産業などに着目して考察し、表現している。

(思考・判断・表現)

- ・ 単元を貫く問いに対する見通しや予想をもち、課題を主体的に追究しようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

思判表の評価基準	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	評価方法
東北地方で祭りやイベントを行い、人を集めることができる理由について、自然環境、景観、交通、伝統的な生活・文化、産業などに着目して考察し、表現している。	東北地方で祭りやイベントを行い、人を集めることができる理由について、複数の見方・考え方をを用いて考察し、表現している。	東北地方で祭りやイベントを行い、人を集めることができる理由について、1つの見方・考え方をを用いて考察し、表現している。	活動の様子やワークシートの記述に基づいて評価する。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際 (指導の実際)

① 第1次 (本時)

東北地方の学習の柱となる「伝統的な生活・文化」やその土台となる「自然環境」や「農業」などの社会的な見方・考え方に生徒の意識を向けることを意図して授業を計画した。そのために、東北地方の特色が読み取れる「上杉雪灯籠祭り」「天童将棋まつり」「秋田竿燈まつり」の写真とその来場者数を示した。学区の祭りである「村上大祭」の来場者数を提示し、比較対象とした上で、学習課題「東北地方では観光客を呼ぶために、どのようなものを活用しているのか」を設定した。生徒は村上大祭の来場者数を踏まえ、東北の祭りの来場者数が多いことを実感することができた。人を集めることができる理由を考察する活動を行い、「雪」「桜」など気候や景観に関わる視点、「新幹線」など交通に関わる視点、「将棋」など伝統的な生活・文化に関わる視点で生徒は考えていた (図1)。しかし、キーワードを関連付けて理由を考察できた生徒がごく少数にとどまったことが課題として残った。

他にも周りに観光できる場所があるから
(一つだと行くのにハードルが高いけど、沢山よるところがある方が行きやすいと思う)

新幹線が通っているから、遠くに住んでいる人も、来やすい

雪を使っているから



桜まつりも同時に行っているから、桜を見に来た人がついでに見る感覚で見ていると思う



図1 「Padlet」で共有された生徒の考え

なお、図1にあるように、第1次では掲示板アプリ「Padlet」を利用した。気付きをSNSと同じ感覚で投稿し、共有できる点を生かし、自分の考えを表現する手段として選択する生徒が多く見られた。他にも表現する手段として、スライドやホワイトボードを準備した。生徒が使いやすいものを選択したことは活発な表現につながった。

② 第2次

東北地方の農業や伝統工芸と祭りの結びつきを考える活動を行った。社会的事象のつながりを視覚的に捉えることができるよう、図式化して説明する活動を取り入れた。下の画像は生徒Aのワークシートの一部である(図2)。東北地方の大きな特色である降雪を出だしに農業や伝統的な生活・文化との関連を見出し、記述することができている。つながりを分かりやすく説明している生徒のワークシートを全体で共有したことで、事象の関連をうまく捉えることが困難だった生徒も関連の見出し方を身に付けることができた。東北地方の農業や伝統工芸が成り立つ背景を理解したことで、祭りの集客との関連を見出そうとする様子が見られた。

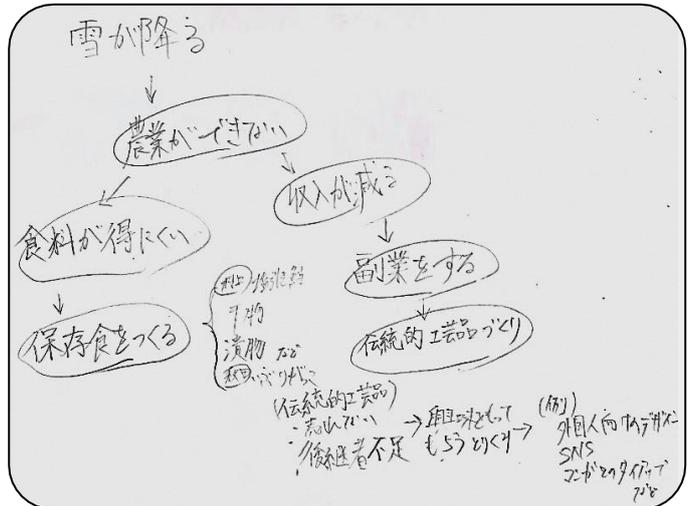


図2 生徒Aのワークシート

③ 第3次

第2次の流れを受けて、単元を貫く課題に対する解答をまとめる活動を設定した。社会的な見方・考え方を意識し、「東北地方で行われている祭りやイベントはどのようなものに支えられているだろうか」について、それまでの学習を踏まえ、自分の考えをワークシートにまとめさせた。

この活動の後、深める問いとして「村上市を観光都市として発展させていくために活用できるものは何か」を考えさせた。東北地方や九州、近畿地方の特色を捉える際に用いた社会的な見方・考え方(「自然環境」「景観」「交通」「伝統的な生活・文化」「産業(農業・工業など)」)を用いてグループで村上市を観光都市にするためのプランを考えさせた。その後、各グループで考えたプランを他の班に回して互いに疑問点や意見を付箋に書く活動を行い、各班で付箋に書いてもらった内容を確認した。そして最後に各自で深める問いに対する解答をまとめた。

生徒Bのワークシート(図3)を見ると、「景観」では「昔らしさを残す」「京都みたいに」、「伝統的な生活・文化」では「ついしゅ(堆朱)を作る人を増(や)す」「鮭を国内に広める・次世代に伝える」などと記述しており、東北地方や九州、近畿地方の学習で学んだそれぞれの地域の特色と課題を踏まえて、村上市を観光都市にするためのプランを考えることができていた様子を見取ることができた。また、他の班が貼った付箋の記述を見ると、「昔らしさとは何ですか」「どうやって(堆朱を)作る人を増やすのですか?」などとあり、生徒Bが提案を練り直し、より説得力のあるものにするにつなげる質問ができていた様子を見取ることができた。

景観	・ゴミ拾い・昔らしさを残す ・京都みたいに
交通	・道路の幅を広く ・歩道も増やす
伝統的な生活・文化	・ついしゅを作る人を増やす ・鮭を国内に広める・次世代に伝える

図3 生徒Bのワークシート

(2) 研究テーマに関わる評価

- ① 授業後にアンケートを行い、「学習課題は自分にとって解決する必要性があるものだったか」、「学習課題を自分が関係する問題として考えることができたか」の項目で肯定的評価をした生徒が80%以上いる。

表1 アンケートの結果

質問	肯定的評価
学習課題は自分にとって解決する必要性があるものだったか	86.3%
学習課題を自分が関係する問題として考えることができたか	89.7%

表1より、両項目とも肯定的評価が80%を越えたため、「必要感をもって課題解決に取り組む生徒の育成」についてはおおむね達成できたと考える。深める問いとして、居住地域である村上市のことを考えさせたこと、学習の対象となった東北地方の特徴は村上市と重なる部分が多いことなどが課題を身近に捉えさせることにつながったと考えられる。深める問いに関わる場面では、村上市の人口が減少していること、村上東中学校の生徒の多くが将来的には別の地域で暮らしたいと考えていることなど、村上市の現状をデータとして示した上で、未来に目を向け、自由に意見を出し合う活動を設定した。そのため、課題をより自分事として捉えることにつながったと考える。

- ② 深める問い「村上市を観光都市として発展させていくために活用できるものは何か。」について、社会的な見方・考え方を働かせて記述している生徒が80%以上いる。

表2 記述の中に含まれる社会的な見方・考え方の数と人数

見方・考え方の数	0	1	2	3以上
人数	1	8	10	6

注)「自然環境」「景観」「交通」「伝統的な生活・文化」「産業」の5つの見方・考え方を働かせて記述した生徒の人数を示している。

表2より、課題を提出した25名中24名(96%)が社会的な見方・考え方を働かせて、深める問いへの解答をつくることができていたため、この目標は達成されたといえる。

☆ 深める問い『 観光都市として発展させるためには何を活用すればよいか。 』 ☆

村上市を観光都市として発展させるためには、「自然環境」や「伝統」、「産業」を活用すればいいと思う。1つ目は「自然環境」、ゴミや穴きり木などをかたづけきれいな場所にした方がいいと思う。2つ目は「伝統(歴史)」で、「魚」についてのことや、「祭り」のことも他県の人や外国の人にも知ってもらおう。3つ目は、「産業」、村上で有名な「魚、お茶、酒」をイベントなどとして実際に食べたり、飲んだりしてもらおう。

図4 生徒Cのワークシート

図4は生徒Cの深める問いに対する解答である。この生徒は、5つの見方・考え方のうち「自然環境」「伝統的な生活・文化」「産業」の3つを取り上げて書いている(赤)。これらの見方・考え方で村上市を捉えた語句(緑)も使われており、自分の住んでいる地域と関連付けて考察した様子を読み取ることができるが、提案の内容はやや具体性に欠けている。第3次で行った各班でプランを考える活動において、付箋の内容を確認した後、すぐに個人で深める問いに対する解答をまとめさせたが、より具体的な提案内容を引き出すためには、付箋の内容について班で再検討してから、深める問いの解答をまとめる時間を設定するなどの配慮が必要だったと考える。

(3) 今後の課題

① 社会的な見方、考え方について

単元を通して、社会的な見方・考え方を組み込んだ発問や課題を設定することにより、生徒の見方・考え方を働かせる力を高めることができたのは、本研究の大きな成果であった。しかし、社会的な見方・考え方が具体的に何を指すのかについて、もっと生徒に分かりやすいかたちで説明すべきだったと思う。まずは自分自身が社会的な見方・考え方についての理解を深めることを前提として、場面ごとに、活用する見方・考え方を明確に説明したり、見方・考え方を示すマグネットを作成して掲示したりするなどの手段を講じていく。

地理的分野と歴史的分野の関連、その上に成り立つ公民的分野との関連を踏まえ、各分野で獲得した見方・考え方を他分野でも自在に活用できるように留意しながら、今後も授業実践を行っていきたいと考えている。

② 課題を自分事として捉え、必要感をもって解決に取り組む姿勢について

課題を自分事にする、必要感をもたせるためには授業の導入の工夫が必須であると考えられる。本実践では林(2024)の「生徒の学びに向かうエネルギー」を高める方法を実践しようとした。しかし、1時間の中に5つ全ての要素を取り入れることができなかった。要素を欠いてしまうと、生徒の意欲が持続しないなど、必要感や主体性を奪うことにもつながりかねないと感じた。今後の実践では、1つ1つの手立ての意図を明確にし、生徒の主体性や必要感をより高い次元まで引き出していけるよう、研究に励んでいきたい。

【引用・参考文献】

- ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』.2018年.
- ・林大志郎『中学校社会科授業の導入大全』.明治図書.2024年.
- ・川端裕介『川端裕介の中学校社会科授業 見方・考え方を働かせる課題設定&評価スキル60』.明治図書.2022年.
- ・川端裕介『図解&フローチャートでわかる中学校社会科教材研究のすべて』.明治図書.2024年.
- ・林大志郎『中学校社会科授業 発問・言葉かけ大全 生徒が考えたいくなるキープレーズ100』.明治図書.2023年.
- ・新潟県中学校教育研究会事務局『授業情報誌 第8号(創設60周年記念特別記念号) Class・深い学びにいたる授業』.2023年.
- ・オンライン掲示板アプリ「Padlet」<https://padlet.com/> (最終閲覧日2024.11.26)